

恋の場外乱闘

30歳目前。もう手段は選ばない。恋愛成就を求めて奔走する、覆面ライターの顛末は…

「人のフリ見て我がフリ直せ」ではないけれど、同世代の女のこたちの恋愛シチュエーションから何か学べることはないだろうかという学術的かつあてすっぽな思惑を胸に、恋に悩める乙女たちと恋愛座談会をば開いてみたぞ。

等身大の恋愛白書 編



今回集まってくれたのは、21~25歳までの肌も輝けばかりの女のこ。その中の1人、同じライター仲間のA子さんはなんと3年間彼氏不在！「あたし、フェロモンないんですっ」と、色白おとりの彼女は言うが、そ、そうかなあ。おっさんは充分やと思うぞ。



「友達には、男のヒトに文句つけ過ぎって言われる。特に食べ方の汚いヒトはダメ。あつかる。なんでも自分を基準にしちゃうのよね。はい、次のヒト！「実は私、半同棲で…」ん、まだ学生よね？「はい、お互い一人暮らしだから、なんか老夫婦みたいに穏やかな」。



「無手な恋愛に慣れる気持ち70%くらいあるけど、別れる体力もないんですよ。私なんか恋する気も弱まりつつある。はい、お次はだあれ？「あたしは去年の11月に別れたばかりなんですけどおー。ほう、それで？「向こうに気持ちなくなっちゃったってうーか…」」



へ、へべー…。「だからこっちは未練タラタラ。でも私がこんなに好きなんだから、またやり直そうって言うのももって。う〜む、前向きなのか、後ろ向きなのか…。いやでも見上げた根性だよ。むっ！あたしは慣ったね。恋こそは人生道楽。いつまでも遊んでちゃダメなのよおっ！

頭の中でどンドン膨らむ 酢飯の上のふくら穴子

錦市場の西の入口で6つの席を競うように、絶えず客が入り出す「さか井」の穴子すし井。井に収まり切らない幸せを独占した罪悪感か、「もう一杯…」と尽きることない欲望のせいかな、お土産用の存在はありがたい限り。その朝に揚がったところを地元の人商人が直接届ける瀬戸内の生穴子は、むっちりとした身を上質の酒でやわらかく煮上げ、吉野葛でぼてっとさせた薄口のタレで仕上げる。鰹と昆布のだしで炊いたまろやかな酢飯と穴子、たっぷり香る海苔の三層はいつまでも頭に残り、折々で食欲を占有する。狭い店内で無駄のない主人の動きに目を奪われたり、同じ目的のため席を詰め合う客同士の連帯感も軽減するが、すしの旨味はどこに行っても目減りしない。



「穴子すし井 お土産用」 1500円



錦小路通 高倉通 大丸 四馬通 ●寿司 さか井 京都市中京区高倉通錦下ル 075-231-9240 11:30~18:30/不定休

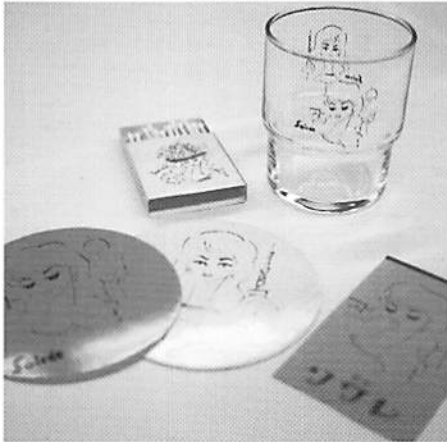
可愛らしい朱色の容器に入ったお土産用には、すしを覆い隠すほどたっぷりの切り海苔が別付けされる。産卵期を終え、これから夏にかけて穴子の一善美味時期がやって来る



I am a みやげマニア!!

100年後にも残したい 京都みやげファイル

タンブラーは1個500円、2個950円、6個2700円。ショップカード、言えばもらえるコースター、マッチ箱でソフレグッズは完璧?



「夜会」の名を持つ優美な昭和の名喫茶店にも、貴重な土産モノあり。初代店長との交流が深かった洋画家・東郷星児氏が描いた女性画をガラスの面に施し、店内で使い始めたのは約30年前。しかし形ある物は、無くなるのが世の常。タンブラーの増産を決めたが、原画が紛失されていたため同じ絵の再現は不可能という大ピンチに。そこで2代目店長は、東郷氏のご令嬢の許可を得て、別の女性画をガラスで蘇らせることに成功。店で使う分の残りも発売したつもりが、人気を博して定番化。片面はドームと伏日の女性、もう片面にはエッフェル塔と女性の描かれ、両者とも甲乙つけがたい美女つづり。このタンブラーを手にするたびに、女心が刺激されるぞ。



昭和23年新築のソフレは店内一面に木彫が施され、近世ヨーロッパのマダム気分。階段中腰のカップコレクションは希少な見どころ

京都市下京区西木町通四馬上ル 075-221-0351 12:00~22:30、日祝11:00~22:30 (L.O.22:00) 月休 (祝日の場合翌日休)

民とりどり@Kyoto



「か」のポツネタ用のこのスペースだが、今月は特別に快く尻取りに協力してくれた「鴨川」の情報に費やしたい。5/30自主企画イベント「鴨川ナイト vol.26」が木屋町EAST (開場17:00前売り1300円)、7月にはファン待望の1stアルバム発売。試聴もできるURL <http://www4.plala.or.jp/kamogawa>

かもがわ

知られざる京都の姿に挑む尻取り探索隊 (コードネーム: ASS HOLE)。今回の案件は「鴨川」。カネを持った川床へアップステアするとは言うものの、やはり多くの京都人は河原への直座りから鴨川歴をスタート。連れの女の制止も聞かず、ザバザバ入水しロッキーの雄叫びばりに「お前が好きなんや!!」と叫ぶ男に橋の上から通行人のスタンディングオベーション、ってな構図もたまにある (マジ)。京産大の学生が空き缶イカダで上流から下ってきた、という武勇伝もあったりする (噂)。共通するのは若き血潮というわけで、そんなパワーを思いっきり発揮しているメロディックパンクバンド・その名もズバリ「鴨川」もいたりする。この春に立命館大を卒業するこの3人、パワフルライブの面白さでインディーズでは全国的に名の知れたバンド。浴衣・裸足・スマイルをテーマに独特和風世界を展開中だ。卒業しても京都で「鴨川」は続くそう。頑張れえ。